



# 青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323  
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成27年8月31日



第23回問屋町納涼パーティー

組合の夏の大人気イベントである「問屋町納涼パーティー」が7月24日(金)、午後7時からホテル青森で開催された。今回で23回目となる同パーティーには組合員従業員431名が参加した。柳谷副理事長のあいさつの後、江渡労務対策委員長の乾杯の音頭でパーティーはスタート。会場中央には盛りだくさんのバイキング料理が並び、

恒例のテーブル対抗ゲームでは、昨年に引き続き全員参加の「問屋町大ジャンケン大

## 400名を超える参加者のもと今年も盛大に開催 第23回問屋町納涼パーティー

### 第23回問屋町納涼パーティー



沢山の賞品が用意された大抽選会

後方には特設コーナーが設けられ、十和田バラ焼きや大湊海軍コロケといったB-1メニューも提供。また、サントリ酒類(株)から『樽生アロバイザー』が派遣され、プロが注いだ美味しい生ビールに参加者は大満足の様子であった。

「会」を実施。はじめにステージ上の従業員モニターとジャンケンをし、勝ち残った15名がステージ上で1対1の熱戦を繰り広げ、優勝者が決定。入賞者はもちろん、入賞者が座っていたテーブル全員にも賞品のラーメン無料券が贈られた。

続いて行われた大抽選会では、目玉商品として、ダイソンのコードレスクリナーやレイコップのふとんクリナー、倉石牛のステーキ肉などの豪華賞品を用意したほか、組合員からも多くの協賛品の提供を受け、230個の賞品がステージ上に並んだ。抽選会が始まり、司会者から当選番号が発表されるたびに会場内には歓声と溜息の入り混じった声上がり、最後に実施した目玉商品特別抽選会で会場の盛り上がりはピークに達した。

平成27年4月から供用開始した青森市の新清掃工場より「事業所から排出されるごみの受け入れ基準を7月から厳格化するため、分別を徹底するように」との通達が寄せられた。それに伴い、組合で実施している燃えるごみ・燃えないごみの個別収集における分別方法も、一部変更となった。大きな変更点としては3つ。1つ目は、燃えるごみ・燃えないごみを排出する際に、入れ物として使用したダンボールが、ごみと一緒に収集されなくなること。ダンボールをごみの入れ物として使用するのには引き続き可能だが、使用したダンボールは紙類リサイクル回収日(毎週月・木曜日)に出さなければならぬ。2つ目は、空きビン類の取り扱いの変更。割れたビンはこれまでどおり燃えないごみとして収集されるが、割れていない空きビンは、燃えないごみ収集日に、燃えないごみと袋を分けて出さなければならぬ。リサイクル可能な割れていないビンは、清掃工場ではなくリサイクル処理施設へ搬入されることに変更となった。また、事業に伴って排出されるビンは産業廃棄物となり、組合のごみ収集では排出できない。

3つ目が産業廃棄物の分別の徹底。これまでは、廃プラスチック類など一部は、産業



エアクッションやPPバンドも収集不可に



ダンボールはごみと一緒に収集されない

## 事業系ごみの受け入れ基準が厳格化

廃棄物であっても、少量であれば、燃えるごみの収集日に排出できていた。今後は受け入れの厳格化により、包装緩衝材のエアクッション、PPバンド、発泡スチロールなどの事業系の廃プラスチック類は、たとえ少量であっても、燃えるごみでは収集されなくなった。組合では、ごみの分別に関する資料を組合ホームページに掲載しているほか、産業廃棄物の収集・運搬業者の斡旋も行っているため、お気軽にお問合せください。

物流センター床改修工事の実施と承認

第3回理事会

第3回理事会が7月27日(月)に開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、平成27年度卸商業団地機能向上支援事業の実施について報告を行った。

主な案件審議は次のとおり。

案件一・事業委員会からの意見について

物流センター床改修工事及び第二問屋町共同倉庫A・B棟照明LED改修工事の実施が承認された。

青森県の電気自動車普及に向けた取り組みについて学ぶ

青森県流通団地連絡協議会

青森県内にある5つの卸団地で組織される青森県流通団地連絡協議会では、7月15日(水)に、第2回団地組合職員研修会を開催した。

青森国際ホテルで開催された同研修会には、各卸団地職員及び組合指導機関である青森県商工労働部、青森市経済部、青森県中小企業団体中央会から計25名が出席した。

研修では、青森県エネルギー開発振興課の今主幹を講師に招き、青森県の電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド

案件二・労務対策委員会からの意見について

新たな労務対策事業として、若手従業員との交流を図る

問屋町スタッフパーティーの開催が承認された。

案件三・企画情報委員会からの意見について

案件四・平成27年度卸商業団地機能向上支援事業特別委員会からの意見について

案件五・組合員の脱退と新規組合員の加入並びに組合施設の賃貸について

案件六・組合施設の賃貸承認について

案件七・つなぎ資金の借換について

ド車(PHV)普及に向けた取り組みについて学んだ。

今主幹は「青森県はEVやPHVの導入普及に積極的に取り組んでおり、平成20年度には東北・北海道で唯一、国の『EV・PHVタウン』に選定され、EV等の普及に欠かせない充電インフラの整備等が推し進められている。25年8月には『青森県充電インフラ設備ビジョン』が策定され、積雪寒冷地である青森県においても電欠(充電切れ)等の不安を感じることなくEV等が利用できるように、市町村の区域ごとに充電設備の適切な配置数を定めた。このビジョンに示された場所に設

青森総合卸センターの流通機能向上策を検討

組合では、全国中小企業団体中央会の卸商業団地機能向上支援事業の補助金を活用し、「地方創生に寄与する青森総合卸センターの流通機能向上策の検討について」をテーマに、調査・研究を行うこととした。

当卸団地設立から50年近くが経過し、経済環境も大きく変化している。卸団地として、組合員の経済的基盤強化の後押しや地域経済活性化への支援につながる機能や役割を再検討する時期に来ている。

今回の事業では、「青森市経済を含む卸団地の現状把握」「青森市の地域性も踏まえた他地域との比較・検討・分析」「当団地に求められる役割と流通機能向上方策の策定」を行う。

これにより、組合は策定した方策の実現に向けて取り組みことで、これまでより効果的かつ具体的に組合員を経営的な側面から支援することが可能となる。また、組合員は青森市及び卸団地における経済環境を様々な角度から分析した当事業の結果を踏まえることで今後取り組みべき方向性が明確になるなどの効果が期待できる。



団地組合職員研修会

例大祭前日の20日(月)には前夜祭として宵宮が開かれ、数多くの露店が立ち並び、参道は大勢の参拝客で賑わった。また、前夜祭では地域の繁栄と安全を祈願した神楽も奉納され、参加者は氏神様に

大星神社で例大祭が執り行われる

当卸団地の氏神様である大星神社において、7月21日(火)に例大祭(神社で毎年行われる祭祀のうち、最も重要とされるもの)が開催された。当日は、当組合の西理事長をはじめ周辺住民ら約80名が参加。地域の安泰や五穀豊稔を祈念した。



大星神社例大祭



特別委員会

同事業では、特別委員会を設置し、組合の柳吉副理事長を委員長に、青森県中小企業団体中央会、青森商工会議所等、外部の専門家も委員委嘱し、流通機能向上方策を検討・策定する。

新型定期預金

マイナーベスト

有利な金利設定\*

固定金利の半年複利

1年、2年、3年から期間が選べる

\*当金庫内の商品と比較した場合

●詳しくは店頭チラシまたはホームページをご覧ください。

青森支店

〒030-0861

青森市長島 2-1-7

TEL 017-734-5411



人を思う。未来を思う。

商工中金

問屋町たんしん

業務報告

主要事項

①問屋町スタッフパーティー  
日時 9月11日(金)  
午後7時～9時  
場所 ホテル青森  
参加料 3階 善知鳥の間  
定員 2,100円  
60人

②フルーツバイキング  
日時 9月27日(日)  
午前10時～午後1時  
場所 青森観光りんご園  
参加料 大人 1,500円  
小人 500円  
定員 50人  
※園内果物食べ放題・BBQ付

7月  
1日▽青森中金会役員会・通  
常総会・講演会・懇親会  
3日▽東北卸商業団地連絡協  
議会通常総会  
4日▽第1回緑のボランティア  
ア隊  
5日▽奥入瀬溪流ハイキング  
6日▽第2回集団健康診断  
(～8日)  
8日▽青森情報処理開発財団  
評議員会  
9日▽第4回問屋町合同清掃  
研究会  
研究事業委員会・ワーキ  
ング委員会

10日▽協米子総合卸センター  
来所  
15日▽金融審査会  
▽県中小企業団体事務局  
代表者懇話会役員会・通  
常総会  
▽青森県流通団地連絡協  
議会第2回団地組合職員  
研修会  
21日▽第1回企画情報委員会  
▽大星神社例大祭  
▽卸商業団地機能向上支  
援事業第1回特別委員会  
22日▽青森地区労働基準協会  
労務管理部役員会  
23日▽青森経済同友会東北ブ  
ロック会議  
24日▽第2回労務対策委員会  
▽第23回問屋町納涼パ  
ーティー  
27日▽第3回理事会

▽青森問屋町政経クラブ  
第1回幹事会・総会  
29日▽第1回税務研修会  
31日▽県健康福祉部献血感謝  
の集い  
▽ビジネススクール：  
2日▽ビジネスマナー研修  
(言葉づかい、電話応対編)  
8日▽営業研修(情報収集編)  
9日▽モチベーション向上研修  
14日▽営業マンのための会計  
入門講座①  
16日▽営業マンのための会計  
入門講座②  
21日▽営業講座③  
23日▽5S活動講座  
28日▽自己分析講座①  
30日▽自己分析講座②

経済雑感 第七十一回

青森総合卸センター 理事長 西 秀記

「青森市の街づくり」

青森市は江戸時代に藩港として開港し、明治時代には東北本線の北の始発・終着駅や、青函連絡船の本州側の玄関口としての役割を担い、北日本の交通の要衝として発展してきた。また、昭和の高度成長期以降も、青森空港開業や東北縦貫自動車道開通、さらには東北新幹線新青森駅開業などにより、あらゆる輸送手段に対応する北の物流拠点としての高いポテンシャルを有

している。そして東日本大震災でサプライチェーンが分断され、物流がマヒしたことに伴う教訓や、北海道新幹線新函館北斗駅開業が目前に迫っていること等を踏まえ、改めて青森市の物流拠点としての可能性を模索する動きもある。

一方、街自体も青森市の発展と同期しながら、駅や港を中心として扇形に広がりながら発展してきた。特に高度成長期には、郊外にどんとん住宅が建てられ、青森総合卸センターの地域もちょうどその頃に開発された。しかし今や、右肩上がりの経済の時代は既に終わり、今は人口減少、超高齢化、少子化などが深刻な問題となり、



青森総合卸センター 理事長 西 秀記 氏

その対策を考えていく中で街のあり方も改めて検討すべき時に来ていると思われる。現在青森市は、無秩序に広がった郊外開発に歯止めをかけ、それぞれの街の拠点をコンパクトにまとめ公共インフラを共有するコンパクトシティ構

想に基づくまちづくりを進めている。この構想の発端は、今から30年近く前に遡る。当時、青森商工会議所内に雪対策に関する研究が設置され、郊外市開発が進み続けると、除雪費だけでも膨大になり、財政を圧迫してしまうことに対し、その後青森市が、この問題

建設機械 販売/リース/サービス

**株式会社 ほくと**

代表取締役 川村 雄 藏

青森支店 〒030-0112 青森市第二問屋町三丁目11-16  
Tel.017-739-5771(代) FAX.017-739-5723  
(URL) http://www.hokuto.com

**クンゼ** 青森県代理店

クンゼ製品・婦人洋品・沓下・タオル卸

有限会社 **多田商店**

問屋町ゴールドカードがご利用いただけます

本 社 青森市問屋町 TEL017-738-4237(代)

〒030-0113 青森市第二問屋町四丁目11-18  
TEL: 762-1411 FAX: 739-7771 http://www.soft-academy.co.jp/

**株ソフトアカデミーあおもり**

●システム企画・開発・運用 ●IT教育 ●給排水CAD・申請 ●施設賃貸事業

私達はIT教育と企業の  
情報化推進のサポートをします

**STS** ロジスティクス・ソリューション

株式会社 新開トランスポートシステムズ

◆総合物流事業  
包装・輸送・保管・荷役・搬入・据付・撤去  
○包装資材加工及び物流機器の販売  
○技術・情報システムのソフト開発及び販売  
○工場クリーンルーム内の搬入・据付・撤去・輸送  
○医療機器・半導体装置・精密機器・その他機器の輸送・搬入・据付・撤去  
○倉庫内セキュリティ完備・一部空調設備有り

◆電気通信工事サポート  
◆物流システム設計  
◆ネットワーク&フットワーク  
輸送ネットワーク・情報ネットワーク・フットワーク  
◆産業廃棄物収集運搬

本 社 TEL: 03-5653-9335 FAX: 03-5653-9337  
青森出張所 TEL: 017-728-7080 FAX: 017-728-7081

### 米子総合卸団地経営研究会が当卸団地を視察

7月10日(金)に、米子総合卸団地経営研究会の会員6名が、当卸団地を視察に訪れた。同研究会は、鳥取県米子市にある(協)米子総合卸センターの組合青年部。卸団地内企業の青年経営者及び後継者で組織され、研修会や各種レクリエーション事業を通して、会員相互の研鑽と親睦交流を図っている。

当日は、当組合の藤本専務理事が当卸団地の概要を説明したほか、青森問屋町経営同友会会員との意見交換会も実施。



同友会会員と意見交換

### 奥入瀬溪流ハイキング

毎年恒例となっているハイキングが7月5日(日)に行われ、組合員従業員やその家族15名が参加した。今回は奥入瀬溪流の雲井の滝から銚子大滝までを散策。当日は天候にも恵まれ、専属ガイドの案内のもと、雄大な滝や川の流れを眺めながら溪流沿いを2時間かけて歩いた。

道中では、近年注目されている苔の観察も実施。奥入瀬溪流は約300種類の苔が生息している日本有数の苔スポットで、参加者はガイドの解説に耳を傾けながらルーペで覗き込んだ苔に釘づけ。普段あまり気に留めることのない苔の魅力に引き込まれていた。ハイキング終了後は溪流近くにある「奥入瀬森のホテル」に場所を移し、温泉で疲れた体を癒した。



ルーペ片手に記念撮影

### 団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、今年の7月に当団地に本社を移転し新規組合員となった、株式会社技研の鷲尾社長にお話を伺った。



技研 代表取締役社長 鷲尾 晴実 氏

同社は昭和54年4月に青森市にて設立。青森本社、盛岡事務所、青森工場を拠点とし、主に官公庁の公共事業を対象としたコンクリート二次製品の開発、製造、販売、施工を行っている。

「当社は、『技の研磨』で明日を創る」を企業理念に掲げ、お客様のニーズに対応すべく、社員一丸となって日々業務に取り組んでいます。これまで、オリジナリティーを多目的に追求し、新製品、新工法の開発に鋭意努力を重ね、多くの工業所有権(特許、実用新案等)を取得しました。また、創業者の遠藤前会長は22歳の若さで特許を取得し、その後も永年に亘り考案改良に貢献し、平成21年春の叙勲において黄綬褒章を受章しました。これらの榮譽はお客様のご愛顧のおかげと常々感謝しています。今後も更なる情熱と誠意を持って、『技の術を研磨』し、広く地域社会へ貢献していきます」と熱く語ってくれました。

「平成23年の東日本大震災発生後、復興特需により当業界の景気は急激に伸びました。当社でも新たに人材を増やし、六戸の工場では今でもフル稼働で作業しています。ただ、この特需は長く続くものではないので、今後は施工後の維持管理や補修業務に力を入れたいと考えています。そのため、社員には今から外部の研修やコンクリート診断士等の資格取得を会社で後押ししています。資格取得により、メンテナンスマンで設計事務所や施工業者とタイアップしていければと思っております」と今後の展望を話してくれました。

(59歳)

### 編集後記

組合の夏の風物詩「問屋町納涼パーティー」が、今年も大盛況のうちに終了しました。近年は参加者が400名を超えるようになり、その分準備は大変になりましたが、多くの方々にご参加いただき、嬉しく思います。さて、1面でも触れていますが青森市では家庭や企業から出るごみの減量化・資源化に力を入れています。ごみの処理には多額の費用がかかり、平成24年度実績では23億3千万円。また、ごみの減量化が思うように入らないため、27年4月から供用開始となった青森市清掃工場での処理しきれない分は他自治内に有料処理を依頼することになり、これには約3億円が見込まれています。▼当組合のごみリサイクル事業のスタートは、平成13年度の紙類リサイクル実験事業。当初は慣れない「分別」という作業に戸惑う組合員も多く、間違って分別されることも多々あり、昨年は「ごみ分別強化キャンペーン」を行うなど、これまで収集業者と一緒に地道に周知を徹底してきました。今では紙類を筆頭にパレットや空き缶、ペットボトル、パソコンに至るまでリサイクル事業は拡がり、平成13年度に693tもあったごみ排出量を平成26年度には238tまで削減することができています。26年度の団地内リサイクル率は52.9%。青森市全体のリサイクル率12.1%と比較するとこの数字の凄さからわかるといえます。▼平成28年度からは、一般家庭のごみを対象に青森市指定ごみ袋が導入される予定があるなど、今後もごみ減量化への取り組みが強化されていくことが予想されます。より一層の分別徹底、リサイクル推進に組合員各位のご協力をお願いいたします。(小田切)



# 株式会社 技研

技研の社是である「技の術を研磨」をイメージし、磨けば光ると言われるダイヤをモチーフに設定。上半分を「未来・希望・成功」の3つの中、下半分を「実績・信頼・挑戦」の3つの道として表現しています。

本社 〒030-0113 青森県青森市第二問屋町3丁目3番15号  
TEL 017-757-9980 FAX 017-757-9981  
盛岡事務所 〒020-0837 岩手県盛岡市津志田町1丁目12番18号  
TEL 019-658-9486 FAX 050-3424-3026  
青森工場 〒039-2312 青森県上北郡六戸町大字下吉田字赤田15番地の1  
TEL 0176-70-1088 FAX 0176-55-3909



株式会社ヒグチは、おかげさまで創業140周年。「これまでの、らしさ」から「これからの、らしさ」へ。

本社 青森市問屋町1丁目15-22  
HIGUCHI 八戸支店 八戸市下長8丁目1-16